



(写真：小菅典明)

争と、社会資源のこ。(カノリエ木藤・音
●——【個展/50のスピーカー】

12月3日から6日までの4日間、東京・銀座ソニービルのSOMIDOにおいて、建築音響設計家・唐澤誠氏によるスピーカーの個展「50のスピーカー」が開かれた。テーマは「和のスピーカーと空間融合性の追究」。「100年の歴史のなかで、スピーカーは常に音を出すための道具に過ぎなかった」と唐澤氏は言う。使わないときは邪魔になるだけというわけだ。「スイッチを切った状態でも、空間に融合するものを」と提案されたのが、これら

のスピーカーだ。テーマの“和”というのは「精神性の文化であり、また共生の文化でもある」。布、和紙など視覚的にも触覚的にも優しい、日本の素材も使われた。また、照明と組み合わせるなどスピーカーの機能を拡大する提案も行われた。「空間を演出する要素がばらばらに作られるのではなく、音もあり、光もあり、空調もあり、それらがトータルに、自然に受けとめられるように」。それが空間の融合ということでもある。

一般のオーディオは、ステレオの立体感を出すために、左右のスピーカーから直接音を聞くようになっている。展示されたスピーカーの多くは、壁や天井に音を反射させ、空間全体に音を拡散させる、音場型のスピーカーだ。「現在の音の楽しみ方から言えば、リスニングポイントの決められていない音場型の方がライフスタイルに合うのではないか。これからの方向として考えてみるべきだと思う」と唐澤氏は提案している。